



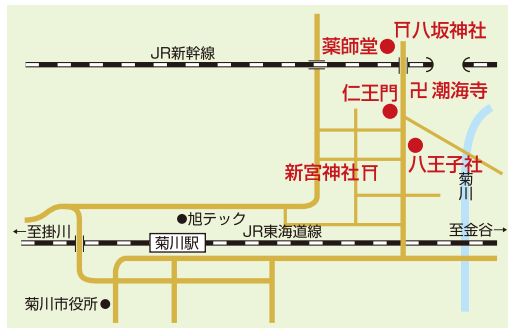
# 潮海寺 祇園まつり

寺町集落の御祭礼



## 祇園まつりの変遷

- 永祿年間 (1558～1569) 潮海寺周辺にも原因不明の病気が蔓延したので、京の祇園社にない災疫除去の祈願をしたのが始まりと云われる。
- 元禄年間 (1688～1703) この頃地元民や潮海寺(上寺)によって神輿が作られ、毎年七月に祇園まつりが行なわれていたと云われる。掛川市日坂の八幡神社では神輿で祭りを行なっていた。日坂八幡神社で神輿を新調したのを機に、神輿を潮海寺が譲り受けたとされる。
- 元禄15年 (1702) 元禄15年1月吉日浜松の伝七作(三百年前)の塗物がある。
- 宝暦11年 (1761) はじめて屋台を作る。初代の屋台は車輪も小さく、仁王門石段の下り上りはこの頃すで行なわれていたようだ。
- 文政 3年 (1820) 初代の屋台が古くなったので、相曾円左衛門より材木の寄贈を受け二代目を作製。
- 明治13年 (1880) 屋台の欄間は日本を代表する彫刻師早瀬長兵衛作。
- 明治16年 (1883) 現在の祇園ばやしが生まれる。
- 昭和23年 (1948) 鹿鳴館に関係する人たちが京都から東京に向かう途中、舞扇、鎌倉、屋台下などの曲目を一週間に亘り伝授。女性が飾り用花造りや踊りにはじめて参加する。(祇園まつりは男性の祭りであった)
- 昭和25年 (1950) ハッピーを新調する。(ハッピーは屋台係のみで他は総て浴衣であった)
- 昭和27年 (1952) 三年に一度の祭りとなる。(戦前、戦中を通し毎年行なわれてきたが若衆不足から全戸で支えることとなる)
- 昭和35年 (1960) 祇園囃子が菊川町無形民俗文化財の指定を受ける。
- 昭和39年 (1964) 屋台の引き回しは、上、中、下地区が順番で担当することになる。
- 昭和63年 (1988) 祭典の日を七月二十三日に最も近い土・日曜日を含めた三日間とする。
- 平成 3年 (1991) 三代目屋台新調する。(区民の寄付金) 二代目屋台が古くなり事故防止と保存のため区民の要望で作る。
- 平成 9年 (1997) 磐田市西之島小栗新太郎作(彫刻引佐郡三ヶ日町伊藤章晴作、塗装師静岡市緑ヶ丘朝比奈豊次) 神輿全面塗装(化粧)する。全戸参加となる。



発行者 **潮海寺自治会 (保存会)**

発行協力者 **静岡県菊川市商工観光課**  
TEL0537-35-0937



お囃子の練習風景  
お囃子の練習は毎月行なわれ、三年に一度の大舞台でその成果が披露されます。



牛の舌  
洗い清めた、米・うす・きねを用いて餅つきを行い、牛の舌の形をした押し餅をつくり、神前に供えます。

まこも切り  
祭りの当日全戸に配られるちまき用のまこも切り作業。



地域の人々による華づくり

## 二代目潮海寺屋台の彫り物

この彫り物は、京都東本願寺にある親鸞上人御影堂の横引き戸と、入り口の門を作成した彫刻師「早瀬長兵衛」によるものです。



菊川市指定  
無形民俗文化財  
**潮海寺祇園囃子**

祇園祭りは、一日中祭り若衆による屋台の引き回しと踊りが村中で行われます。潮海寺の祇園囃子は、「舞扇」「かまくら」「屋台下」の曲目があり、祇園囃子は市の無形民俗文化財に指定されています。

# お天王様・八坂神社の祭り

## 潮海寺祇園祭り

潮海寺八坂神社は牛頭天王(スサノオノミコト)を祀っています。祇園祭りの由来は、貞観十二年(八六九)京の都に疫病が流行し、その疫病の蔓延をおさえ、災厄の除去を祈るために祇園社の神輿を神泉苑に送り、災厄の除去を祈ったのが始まりと言われています。

牛頭天王は、王子達とともに、下社を訪ね、人々の厄を祓い、秋の豊作を祈ります。祭りは「御神輿渡御」の行列に始まり、祭りのクライマックスは、仁王門の石段(三十三段)を下り上りする屋台の引き回しです。それは、長年の伝統に支えられた、勇壮な一瞬であり、菊川のまちに幸福と夏を運ぶ風物詩です。



御神体のミタマ移しと御神輿渡御

午後3時「ミタマ移し」の祭典が始まります。ほら貝と太鼓の響く中を、身を清めた若者が清潔な袴姿で八坂神社の神前にぬかずきます。おごそかに御神体が御神輿に移され、清めの切り火が切られ拜殿まで降ろされます。そして、新宮神社へと、渡御の行列が始まります。



塩井戸

みそぎの済んだ一行は、神の水を汲むための塩井戸へ向かいます。この神の水は、悪霊を除き家の中を清めるため、みそぎをした人々の家先に架けられます。



水ごうり

氏子から選ばれた若者12名は、水ごうりの場、水神瀬へと向かい心身を清め水神様へ祈ります。